

茨木スクールカウンセラー研究会 日記

第39回 2014年12月 **特別支援教育** の巻

・小学校 SC と中学校 SC それぞれの SC から、特別支援教育の基礎知識についてレクチャーを受けました。

・お二人の話からは、①特別支援教育や支援学級の仕組みを理解し、利用する際の手続きの流れを知っておくこと ②学校や校長の判断、保護者・本人のニーズを把握すること ③そのニーズと学校の受け入れの体制が合うかどうか、卒業後のその子の進路や将来像も考えて、相談を進めていく必要があるとありました。

・事例提供者からは、PDD の診断がついている小 6 児童について、中学校で特別支援学級に入るかどうか検討中のケースを発表していただきました。

保護者がどういう認識でいるかを把握しつつ、子どもに対して特別支援がなぜ必要かについて保護者が理解できる指標を示しながら伝えることや、環境・本人の資質・教育療育の三点を分けて考えること、期日(いつまでに支援学級入級の結論を出すべきか 等)をおさえる等の意見がありました。

保護者と学校との対立構造を防ぐために、両者で考える会を設ける案も出ました。

記録： 小枝（臨床心理士）

日 時： 2014年 12月21日(日) 15:30～18:00

場 所： 茨木市男女共生センター ローズWAM

参加者： 10名（大阪府、奈良県、京都府、兵庫県 SC ）

本日の話題：**特別支援教育について**

1. 基礎知識についてのレクチャー(渡辺さん、奥野さん)

2. 事例検討 (PDD の診断がついている小 6 児童のケース)

3. 全体共有

次回開催予定： 2015年1月25日(日)13:00～15:00